ボーイズラブ回顧年表：ぶどううり・くすこ文責

―文献及びぶどううり・くすこ個人の記憶並びに確証が持てるであろう伝聞に基づく―
出典は可能な限り明記

1978 年 10 月 1 日
『 comicJUN 』（サン出版・刊）創刊
中島梓が『少年派宣言』と題した一文を寄せる。
中島梓（栗本薫）の JUNE に対する姿勢・理念の礎とも言える
一冊『美少年学入門』のはじまりである。
以降彼女は 1983 年 11 月刊行の【復刊】 JUNE 13 号に至るまで毎号に
『美少年学入門』を構成する原稿を寄せ続けた。
後に『美少年学入門』は 1984 年 6 月に新書館から単行本化され、
1987 年 11 月には集英社から文庫化。更に 1998 年 10 月には
筑摩書房から文庫化された。

1979 年 2 月 1 日
『 comicJUN 』3 号、『 JUNE 』と改題され刊行される。
以降誌名は『 JUNE 』に定着。これが所謂「大 JUNE 」と通称されるもの。

1979 年 4 月 1 日
『JUNE』（『comicJUN』）通巻 4 号刊行
編集後記にて誌名変更の理由が明かされる。
《株式会社ジュンの商標と混同される恐れがあった為》との事。

1979 年 12 月 20 日
同人誌『RAPPORI（らっぽり）　やおい特集号』刊行（発行責任者：波津彬子）
収録された座談会（「らっぽり特別企画　やおい対談」）にてやおいの定義を
冗談交じりに話し合う。 現行の原義『山なし落ちなし意味なし』はここから
由来するものか？
なお座談会中には遡る事 7 年程前に既にこの定義に基づいた掌編が成立して
いたとの証言もある。 【再録；「小説 JUNE」2001 年 3 月号/通巻 129 号】

1979 年 8 月
『 JUNE 』一時休刊【国立国会図書館雑誌検索にて確認可能】

1980 年 10 月 5 日
『 ALLAN 』（みのり書房・刊）創刊。アニメ情報誌『OUT』増刊号としてスタート。
途中独立刊行化するも 1984 年 6 月・通巻 22 冊にて『JUNE』のライバル誌としての
歴史を閉じる。

1981 年 5 月 25 日
『ふぁんろーど』（ラポート・刊）5 号掲載「ふぁんろーど★くりにっく」にて
回答文中に 「ショタコン」の文字が登場。（74 ページ）
「ショタコン」の初出。

1981 年 10 月 5 日
『 JUNE 』、『劇画ジャンプ』増刊として復刊。
以降『 JUNE 』ブランドは2012年まで形式を変えつつも継続。

1982 年 1 月
竹宮惠子、『 JUNE 』誌上で「お絵描き教室」を展開開始。
（情報収集先：「竹宮惠子の図書館」北館
http://www.eurus.dti.ne.jp/~miyabi/kt-lib/north/north-illustessay2.htm）
この一連は後に角川書店発行『マンションネコの興味シンシン』及び
『マンションネコの興味シンシン（続）』（ともに1984 年発行）に再録され、
後に筑摩書房から 2001 年に刊行された『竹宮惠子のマンガ教室』にも抄録された。

1982 年 4 月 8 日
魔夜峰央原作『パタリロ！』、アニメ化されフジテレビ系列にて放映される。
【全 49 話。1983 年 5 月 13 日に終了。
1982 年 10 月 9 日放送第 21 回より『ぼくパタリロ！』と改題】
原作は少女漫画誌「花とゆめ」（白泉社）掲載ではあるが男性同士の恋愛関係も
重視されている世界観を内包した作品。その世界観を一切隠す事無くアニメ化された。

1983 年 10 月 5 日
『小説 JUNE 』創刊。所謂「小 JUNE」と呼ばれる存在。

1984 年 1 月 1 日
『ファンロード』84年1月号（ラポート・1984.1.1発行）〈ショタコン特集〉冒頭にて
「少年探偵団コンプレックス」語源説否定される。
同説が提唱された場所については明記されていない。

1984 年 1 月
『 JUNE 』誌上に中島梓（栗本薫）を道場主とする小説講座「小説道場」が開設される。
この連載の一連は後に新書館から 3 冊組で単行本化（ 1986 ～ 1989 ）され、
後に光風社出版より新版として 4 冊組で再刊（ 1992 ～ 1997 ）された。

1987 年 1 月 24 日
別冊 COMIC BOX1『つばさ百貨店』（ふゅーじょんぷろだくと・刊）刊行
現在の二次創作ジャンル別アンソロジーの祖であると思われる。A5 より幅が狭い
ムック形態。

1987 年 7 月 1 日
別冊コミックボックス 3『つばさ五段活用』―つばさ同人誌傑作アンソロジー―
（ふゅーじょんぷろだくと・刊）刊行。
こう言う内容の刊行物に『アンソロジー』と冠した祖と思われる。A5 より幅が狭い
ムック形態。

1988 年 3 月
青磁ビブロス創業。
（1997 年にビブロスに社名変更→2006 年に倒産後リブレ出版として再生）

1988 年 4 月 20 日
FRESH PACKS『メイドイン★星矢』―星矢同人アンソロジー―（青磁ビブロス・刊）
刊行。
青磁ビブロス（後ビブロス→リブレ出版）創業間もない頃の仕事。
この時点でカバー付 A5 版・ISBN 付と言うアンソロジーの流通形態が整う。

1988 年 11 月
この界隈初の音声メディアと言えるカセット JUNE の創刊。
「鼓ヶ淵」（三田菱子原作）が第一号。
往時大 JUNE でも作品を描いていた中田雅喜がエッセイ漫画「ももいろ日記」の一編に
作品視聴所感を 描き残している。
（所収：「ももいろ日記　 下」ユック舎・批評社/1991.1.10 初版、71～74 頁）

1990 年 1 月 1 日
コミックマーケット第 2 代代表・米沢嘉博が『現代用語の基礎知識 1990』
（自由国民社）掲載 「マンガ文化用語の解説」文中で《少女アニメファンの一部を
″やおい族″とよぶこともある》と言及。

1990 年 4 月
青磁ビブロスより PATSY コミックス創刊。
少女漫画レーベルではあるがその範疇にはボーイズラブ風味の作品も含んでいた。
あくまでもボーイズラブ専門レーベルでは無い。

1990 年 8 月 1 日
『 GUST 』（桜桃書房）、アンソロジー形態で創刊。 キャッチフレーズは″YAOI COMIC″。

1991 年 1 月 1 日
コミックマーケット第 2 代代表・米沢嘉博が『現代用語の基礎知識 1990』
（自由国民社）掲載 「マンガ文化用語の解説」文中で《やおい》を独立項目として
解説。
″ヤマなしオチなしイミなしの略であり、ショタコンと少年愛路線（JUNE 派）が
結びついて生まれたもの″と ほぼ断定。この基本定義は 2002 年版で米沢が解説員を
退くまで変化せず。

1991 年 4 月 20 日
有限会社すたんだっぷ出版部（代表：荒木立子/あらきりつこ）が オリジナル
アンソロジー『 Boy Beans 』SPRING 1 を刊行。
″女のコによる女のコのための男のコの本″″男のコどうしだっていいじゃない″ と
表紙に謳う。
なお、巻末広告には 10 月刊行予定の次号刊行予告が掲載されているが 実際は
刊行されていない。
10 月刊行予定号の内容を一部改変されたものが同年 12 月、白夜書房から
「イマージュ」として刊行された、と資料からは読み取れる。
なお、『 Boy Beans 』誌面に「 BOYS LOVE 」と言う語彙は出てこない。

1991 年 12 月 10 日
『イマージュ』（白夜書房・刊）創刊。
キャッチコピーに″ BOY'S LOVE COMIC ″と冠する。
「ボーイズラブ」と言う言葉の初出であると考えられる。
考案者は編集プロダクション『すたんだっぷ』代表・荒木立子（白城るた）と
されている。
【2004 年 8 月、漫画家の河内実加が自身の WEB 日記で『″ボーイズラブ″は
あらきりつこ（荒木立子）が 命名したもの』（大意）と言及。
MacaMica-まかみか　Mika Kawachi's Talking
http://www.asahi-net.or.jp/~rj4m-kwc/
DIARY→OLD→2004 年 8 月→6 日付記事】
ただし現在の定義そのものではなく「耽美」或いは「JUNE」の置換語と
認識されていた節がある。
また同日、勁文社より神崎春子の小説『瞳に星降る』が″耽美小説 SERIES″の
初回配本として刊行される。 この傾向の商業区分としての《耽美小説》は
ここに始まったものと思われる。
このシリーズはハードカバーであったが新書版の大きさであり一段組であった。
現行の BL ノベルス版版組の 原型になったのでは無いかと思われる。

1991 年 12 月 20 日
『 b-Boy 』（青磁ビブロス・刊）創刊。
「ボーイズラブ」の文字は誌面に一切出てこない。

1992 年初頭
『 JUNE 』関連の発行元がサン出版からマガジン・マガジンに移管されたと思われる。

1992 年 4 月
白夜書房が″白夜耽美小説シリーズ″刊行を開始。

1992 年 6 月 30 日
『小説イマージュ』（白夜書房・刊）創刊。
キャッチコピーに″BOY'S LOVE NOVELS″と冠する。
のちの雑誌『小説イマージュ CLUB』（白夜書房→コアマガジン・刊）である。
但しここに掲載された作品は概ね「耽美」と解釈されていた様子。
「ボーイズラブ」と冠した作品もレーベルも往時はなかった。

1992 年 8 月
マガジン・マガジンより『間の楔』OVA第一巻が発売される。
この界隈初のアニメ化作品と捉えて良いかと。
なお2012年1月18日から同年4月18日にかけてはポニーキャニオンより
キャストを一新した新版アニメが4巻構成で発表された。
＊＊＊＊
ボーイズラブという括りで考えるならばここから約2年後、桜桃書房より発売された
『おさかなはあみの中』（原作：乱魔猫吉 / 1994.7.20 発売）を嚆矢と捉える
見方も出来る。

1992 年 12 月
角川文庫よりルビー文庫創刊。
但し純然たる創刊ではなく先行して存在したスニーカー文庫（87 年創刊）からの
独立創刊と言う形であり、 更に言えば JUNE（後に BL も取り扱う）専門レーベルとして
創刊された訳でも無い。
スニーカー文庫に於いても栗本薫「終わりのないラブソング」 / 三田菱子「鼓ヶ淵」 /
尾鮭あさみ「舞え水仙花」 / ごとうしのぶ【タクミくんシリーズ】はじめ原田千尋や
野村史子らの 諸作品が刊行されていた。（1990 年 2 月頃以降とみられる）
これ等諸作品はルビー文庫に移行した。
なお創刊から暫くの間のラインナップを見る限りでは集英社コバルト文庫の発展形を
目指していたのでは 無いかと考えられる。

1992 年 12 月
青磁ビブロスより BE×BOY コミックス創刊。
ボーイズラブ漫画の専門レーベルとしては第一号と認識して良いかと思われる。
浜田翔子『夢の子供』は第 1 巻が PATSY コミックスから刊行され、第 2 巻以降こちらの
レーベルで刊行。 後に第 1 巻もこちらから再刊された。

1992 年 12 月 25 日
二見書房より耽美小説シリーズとして"Velvet Roman シリーズ"刊行開始。
初回配本された神崎春子『ベイシティ・ブルース』は元々『小説 JUNE』及び
同じサン出版から 刊行されていた同性愛者向け雑誌『月刊さぶ』に掲載されて
いた作品である。
また同作品は後年二見書房が創設したボーイズラブ作品レーベル"CHARADE BOOKS"に
ボーイズラブ作品として採録された。

1993 年 2 月
ふゅーじょんぷろだくとより
『上田信舟＋藤たまき―真田シスターズ　同人作家コレクション 1』（ISBN:489393127X）が
刊行される。
現在まで各社で連綿と続く同人作家商業版個人選集の刊行はここに始まると思われる。

1993 年 5 月
青磁ビブロスより BE×BOY ノベルズ創刊。
ボーイズラブ作品を軽装ノベルズ形態にした初めてのレーベル。

1993 年 5 月 22 日
太田出版よりイトウセイコ著『ダウン系 1』が刊行される。
当時の実在中堅漫才師（当時）であったダウンタウン【浜田雅功・松本人志】周辺から
想を得た二次創作を収録した一冊。
イトウセイコのダウンタウン二次創作（界隈用語で言う［ナマモノ］の一種）は最終的に
4冊商業出版で刊行された。
＊『ダウン系 2』（1994 年 5 月 30 日初版 / 太田出版）
＊『イトウセイコ　同人作家コレクション 8』
（1995 年 2 月初版 / ふゅーじょんぷろだくと）
＊『ダウン系 3』（1996 年 1 月 31 日初版 / 太田出版）

1993 年 8 月 1 日
角川書店あすかコミックス DX より中田雅喜『蠍座の少年』刊行。
JUNE 初出のシリーズ作品ではあるが継続して『獅子座の男』『双子座の天使』
『牡牛座の恋人』 『魚座の騎士（ナイト）』とあすかコミックス DX にて
刊行され続け、そのまま現在は品切れ。
あすかコミックス DX より BL 用レーベルの CL-DX が分岐した事実との
因果関係は不詳。

1993 年 11 月
『 magazine BE×BOY 』（青磁ビブロス）独立創刊。

1993 年 11 月 1 日
CD-JUNE の一点として『間の楔 DARK-EROGENOUS 』がマガジン・マガジンより
通販専用でリリースされる。この界隈初のCDメディア作品と思われる。
参照資料：『 JUNE 』1993年11月号（73号）「間の楔 NEWS 」、1995年9月号（84号）裏表紙
＊＊＊＊＊
ボーイズラブと言う括りで限定するならばほぼ一年後の1994年 12 月 21 日に
BE-BOY VIDEO （青磁ビブロス）からリリースされた【取扱い：大映ダイレクトサービス】
『 LESSON xx ～5回目でやっとサクセス～』（原作：おおなぎえい；CD用書き下ろし作品）を
嚆矢と捉える事も可能かと。
この原作は後におおなぎえいの著書『LESSON XX 2』に採録された。

1994 年 3 月 1 日
雑誌『Charade』（二見書房・刊）創刊。
キャッチフレーズは"BOYS' LOVE for GIRLS"。
白夜書房以外で「ボーイズラブ」と言う言葉を使った嚆矢となる。
定義は明示されていないが現行にかなり近いものであると考えられる。

1994 年 8 月 1 日
マンガ情報誌『ぱふ』（雑草社）8 月号にて
特集 「創刊ラッシュで戦国時代突入―『BOYS LOVE MAGAZINE』完全攻略マニュアル」が
組まれる。（52～60 ページ）
「ボーイズラブ」と言う言葉の伝播に一役買った特集では無いかと思われる。
また、分野を指す言葉として「ボーイズラブ」が共有されたのもこれ以降ではないかと
思われる。

1994 年晩秋
後にビブロスの子会社と確認されたハイランド創業はこの頃と思われる。
（アーカイブ上に残るサイトデータに沿革が記載されていない為、刊行物の初版日より推定）
当初は二次創作アンソロジー専門版元として機能していたが、後にオリジナル作品の刊行も
する様になる。

1994 年 11 月
二見書房より CHARADE BOOKS 創刊。
ノベルスもコミックも同一レーベルの下で刊行。
『ボーイズラブ』をレーベルのキャッチフレーズとして明確に持ちいた嚆矢であるか？
ここより発展したシャレード文庫は 1998 年 1 月創刊。
キャッチコピーは「爽やかボーイズラブに夢中！！」。

1994 年 11 月 9 日
『COMICイマージュ』 VOL.16
（1994.11.9 初版 / 白夜書房 / ISBN：4893674358 / すたんだっぷ；編）の
読者投稿頁・「イマージュポケット」にて、〈BOYS LOVE〉の略称として
編集部から「BOVE」が提示される。

1995 年 9 月 1 日
『JUNE』【所謂「大 JUNE」】、通巻84号にて休刊となる。
以後 JUNE ブランドの雑誌の混迷が少々有り。
また、興味深い記事として304頁に「JUNE実写ビデオプラン大募集！」との
記事が掲載されている。
後年刊行されたムック『恋JUNE』付録DVDに収録されたオリジナル実写BL作品の
構想はここに端を発するものか？
参照：
『恋JUNE』VOL.6 付録：撮り下ろしゲイビデオドラマ40分「天使とオレ」天使編
（2008 年 4 月 20 日発行 / マガジン・マガジン）

＊＊『ぱふ』の特集の煽りの如く 90 年代前半頃は雑誌が創刊されては
消えてゆくという現象が 良くみられた。詳細は略すが B5 版（大判）の
雑誌も決して少なくはなかった。ただそれらに 掲載された作品が単行本に
採録された例はかなり少ないと思われる。＊＊

1996 年 1 月初頭頃
恐らく世界初となるやおい専用会員制サイト『同人倶楽部（矢追漫画ビル）』が開設される。
http://www.yaoi.com/
国内だけではなく国外にも門戸を開放する予定だった様子だが、98年7月頃には閉鎖に至って
いたと思われる。【Internet Archiveからの確認】
現在このドメインからたどり着けるのは海外の会員制転載サイト。

1996 年 1 月
太田出版より四谷シモーヌ著『悪の華　インコ真理教入会マニュアル』刊行される。
ナマモノ本の商業出版。往時の社会現象と相まって話題を呼ぶ。

1996 年 2 月 1 日
『JA:KOW』VOL.1（桜桃書房/ 1996.2.1 初版 / ISBN:4756702864）表紙キャッチコピー中に
「GUYS LOVE」と記載。語の初出か？

1996 年 3 月 1 日
フェニックス・エンタテインメント制作、ビーム・エンタテインメント販売による
SFロマンアニメーション『銀河帝国の滅亡・外伝 蒼き狼たちの伝説 VOL.1　7番目の男』が
通販開始となる。【レンタル・店頭販売開始は同年 12 月 18 日】
ゲイ向け雑誌「薔薇族」（当時の版元は第二書房）の協力の下作成された
SFとしても骨太な作品。
広告掲載媒体は「薔薇族」及び「manga 純一」（光彩書房）。
性描写も含む完全版【X版。VHS及びレーザーディスク】と及び
性描写をカットした短尺版【R版。VHSのみ】が存在した。
同作品は一時期諸事情により市場流通から姿を消していたが、2005 年 3 月 4 日に
デジタルワークスエンタテインメントの BL アニメレーベル・ Slash より
通販専用 DVD 作品として復刻された。
なおこの作品は海外でも『Legend of the Blue Wolves』等のタイトルで周知されており、
深く愛好される向きも居る。
参照：
「Ask John: What’s the Background of Legend of the Blue Wolves?」
http://www.animenation.net/blog/2005/03/31/ask-john-whats-the-background-of-legend-of-the-blue-wolves/
※記事中紹介されている日本のファンサイトとはぶどううり・くすこ制作の情報ページ。
現在のURL　http://xqo.ooh.jp/bw/ 及び http://xqo.ooh.jp/bw/com.htm
＊＊＊
Slash　http://www.slash-jp.com/
＊＊＊
フェニックス・エンタテインメント　http://www.phoenix-ent.co.jp/

1997 年 3 月
版元としては中堅所に位置したヒカリコーポレーション（旧社名：ひかり出版）、
ほぼ予告無しに倒産。 同社から刊行された作品群の内再版されたものは極めて少ない。

1997 年 4 月
青磁ビブロス、ビブロスに社名変更。

1997 年 9 月 15 日
『b-Boy Zips』（ビブロス・刊）4 にて読者投稿の一節に「BOY’S LOVE」と
記される。（271 ページ）
ビブロスの刊行物に「ボーイズラブ」と掲載された最初であると思われる。

1998 年 12 月 5 日
『コミック JUNE』（マガジンマガジン・刊）VOL.4 で現行形式となる。
キャッチコピーは"21 世紀を愛で切り裂く原色のボーイズコミック誌見参!!"。

1999 年 6 月 5 日
「活字倶楽部 13 ’99 春号」（雑草社/ 1999.6.5 発行/雑誌 14079-06）掲載の
ひらのあゆ作四コマ漫画（111頁掲載）にて用語『メンズラブ』初出か？。
※単行本『迷宮書架』（雑草社/ 2003.4.23 初版/ ISBN:4-921040-04-4）111 頁に再録。

1999 年 8 月 11 日
ネット上で「腐女子」の使用目撃例が報告される。
【日記・Diary：1999.08 まで（赤穂 昭太郎 / Shotaro Akaho）
http://www.geocities.jp/shotaro_akaho/diaryj-199908.html】
腐女子関係の最古のネット記録と思われる。
同時にこれは出典を明記できる現存最古の記録であるとも思われる。

2000年【月次不詳】
BL作品レビューサイト"ホモミシュラン"開設か？
http://www.ja-na.com/hm/
【年次同定はWebArchive上の最古のデータ・2004 年 2 月 19 日のものよりたどれた
「2000 年ホモミシュラン・オブ・ザ・イヤー集計結果発表！」
(http://www.ja-na.com/HM/2000rank.html)に拠った】
個人開設サイトでありながらクロスレビュー形式をとり可能な限りの
客観レビューを目指した。しかし参加者個々の筆致のみを模倣する
個人が居たであろう事も否定は出来ない。

2000 年 6 月
角川ルビー文庫より『美少年の恋』（水田菜穂：著、ヨン・ファン：原案 /
ISBN:4044412014）刊行。
同名映画のノベライズ。翌月には木戸サクラ・画で漫画化もされる（ISBN:4048532146）。
海外のボーイズラブ表現輸入の先駆けであるか？

2000 年 8 月 10 日
株式会社ソフパルの女性向けゲームブランド・プラチナれーべるより
『好きなものは好きだからしょうがない!!— FIRST LIMIT—』が発売される。
初めての商業ボーイズラブゲーム。
http://www.softpal.co.jp/platinum_me/project/
のちに角川書店及びマリン・エンタテインメントも合流してマルチメディア展開を見せた。

2001 年 2 月頃
『 JUNE 』公式サイト「 JUNE-NET（ジュネット）」開設。
http://www.june-net.com/
往時は交流サイトとしての面とアーカイブサイトとしての面を持ち合わせていた。
※全作品を網羅する試みとして「ジュネ作品リスト　1978-2000 」なる検索コーナーが
存在した。

2001 年 9 月
米・カリフォルニア州にて"YAOI-CON"開催される。
以降年一回開催され、日本からも開催毎にゲストを招く様になる。
http://yaoicon.com/
《日本からの招聘ゲスト一覧》
2001　氷栗優・黒川あづさ・新宿西口・米沢嘉博
2002　新田祐克
2003　櫻井しゅしゅしゅ
2004　やまねあやの
2005　こだか和麻・氷栗優
2006　わたなべあじあ・川唯東子
2007　沖麻実也・川原つばさ・高永ひなこ
2008　大和名瀬・かいやたつみ
　　【新田祐克が招聘される予定であったが諸事情あり大和名瀬と交代】
2009　南かずか（みなみ遥）・宮本佳野・立野真琴
　　【ほぼ直前にみなみ遥が病欠となる】
2010　やまねあやの・置鮎龍太郎・木内秀信・高永ひなこ・宮本佳野
2011　稲荷家房之介
2012　小笠原宇紀
なお、同イベントは個人主催により開始されたが2011年
以降、アメリカの出版社Digital Manga Publishingの
手による開催となった。
参照：http://en.wikipedia.org/wiki/Yaoi-Con

2001 年 11 月 25 日
『b.p.m.—Boys Paradise Magazine—』#01（工学社・刊）刊行
BL ゲーム紹介とインターネット活用術と同人活動指南、そして
801 とゲイの橋渡しを多様な解説で目論むと言う贅沢な内容の一冊。
但しこの一冊のみで後続はいまだ無い様子。

2002 年 1 月 7 日
『magazine BE×BOY』（ビブロス刊）1 月号発行。
キャッチコピーは「夢見る BOYS LOVE マガジン★」
以降表紙キャッチコピーに"BOYS LOVE"を盛り込む

2002 年 8 月
「オトコのヤオイ好きの憂鬱」
http://www2.bbspink.com/801/kako/1029/10299/1029955810.html
4 番レス（2002 年 8 月 22 日記述）にて「腐女子」との洒落合わせと
言う形で「腐兄」と言う 男性やおい愛好者の自称が提唱される。
また 69 番レス（2002 年 8 月 29 日記述）にて「腐男子」が一般的に
用いられていると発言されたが 論拠等は示されず。
なお、この時点で腐男子にも腐兄にも百合好きと言う属性は付記されていない。

2002 年 10 月 1 日
『小説 JUNE 』（マガジン・マガジン刊）2002 年 10 月号【通巻 144 号】
特集《男と男の抒情詩！『さぶ』大辞典》掲載インタビュー（142 頁～）に於いて
『comicJUN』創刊編集長・『さぶ』創刊編集長を歴任した櫻木徹郎
（当時『小説 JUNE』編集長。現マガジン・マガジン専務取締役）が
「『さぶ』は元々（［作家］ジャン・ジュネの世界観を考えて）『ジュネ』と言う
誌名になる筈だった」（要旨） と発言。

2003 年 6 月 7 日
B6 版オリジナルアンソロジー『恋だろ!?恋！』13（光彩書房・刊）読者コーナーにて
編集部から読者への呼びかけとして「腐女子」が用いられる。（168 ページ）
現在明確に確認できる「腐女子」活字化の嚆矢か？

2004 年 【月次不詳】
アメリカにて専門出版社 "YAOI PRESS" 発足。
WEBサイト稼働及び実質的な刊行開始は 2005 年に入ってから。
【 Web Archive 及び Amazon の検索に拠った】
http://yaoipress.com/

2004 年 4 月
『小説 JUNE 』、『小説 JUNE DX 』と誌名を変え、通巻 153 号で休刊。

2004 年 5 月 1 日
『ぱふ』（雑草社・刊）2004 年 5 月号巻末掲載「ぶらり途中下車の旅」池袋（東口方面）編
文中に於いて「乙女ロード」の名称が始めて用いられる。

2004 年 初夏頃【月次不詳】
山下書店新宿本店（当時）に在籍していた永嶋理恵子（ながしまりえこ）が
販売戦略として BL 作品の棚にひぐちアサ作「おおきく振りかぶって」を配置し、
「耽美」「 BL 」「萌え」の語をちりばめ、二次創作を煽り立てる様なPOPも
付していた、との事。 8 月初頭頃までその配置は続いた模様。
参考資料：
WEB 本の雑誌・連載堂書店・「錦町のお嬢」※元「新宿のお嬢」ながしまりえこ
第 16 回 http://www.webdoku.jp/rensaido/backnumber/nagashima/2004/08/02/162000.html
第 20 回 「～ごめんなさい。心からの謝罪をみえない貴方に～」
http://www.webdoku.jp/rensaido/backnumber/nagashima/2004/08/23/122000.html

2004 年 7 月 1日
はてなダイアリーにて flage 氏がブログ「腐男子の書斎から」を展開開始。
（http://d.hatena.ne.jp/flage/）
【参照記事：腐女子の注目を集める腐男子のブログ
http://d.hatena.ne.jp/izumino/20040716/p3】
腐男子をタイトルに冠したブログの嚆矢と言えよう。
先行し評判になっていた三谷ちず管理の腐女子ブログ・
「腐女子の行く道、萌える道」で定着しつつあった挨拶・
『～～～腐女子です』に倣い、『～～～腐男子です』と言う
挨拶を用いたりしていた。
【「腐女子の行く道、萌える道」 http://fujoshi.moe-nifty.com/chizu/
2003.12.14 ～ 2004.8.12 稼働】
後にブログは 2004 年 8 月 6 日以降 blogzine （http://fudansi.blogzine.jp/）
で展開され、更にアメーバブログ（http://ameblo.jp/fudanshi/）に
移転して展開された。 Blogzine からアメーバブログへの移転日に
ついては記録漏れ。
記事記録から読み取れる限りではアメーバブログに 2005 年 4 月段階で
移転したらしい。
WEB アーカイブ及びそのリンク追跡によって各地点の記録を
ある程度まで追跡する事が可能になっている。
後述のサイゾー取材時（ 2005 年 6 月号掲載）には blogzine の
アドレスが記述されている。
「腐男子の書斎から」は 2007 年 12 月末日、完全更新停止。
【投稿記事は 11 月 26 日付のものが最終。 12 月末日の記事は
予告があったが投稿されなかった模様。】
現在 WEB 上から元データは消失している。

2004 年 8 月 11 日
B6 版オリジナルアンソロジー『恋だろ!?恋！』 21 （光彩書房・刊）読者コーナーにて
編集部から読者への呼びかけとして「腐男子」も「腐女子」とともに用いられる。
恐らく「腐男子」が活字になった嚆矢か。

2005 年 1 月
PCゲーム『好きなものは好きだからしょうがない!!』がアニメ化され
地上波放映される。ボーイズラブ作品の初TVアニメ化。

2005 年 1 月 25 日
Wikipedia に「腐男子」項目が登場。「腐女子の対義語」として始まった記述は
現在様々な解釈が入り混じったものになっている。
因みに Wikipedia 上で腐男子＝百合作品を好む男性と記述が現れたのは
2006 年 8 月 27 日が最初。

2005 年 2 月 18 日
米国・DigitalMangaPublishingのボーイズラブ作品専用サイト『Yaoi-manga.com』が
開設される。
ボーイズラブ作品専用レーベル『Yaoi-manga』も創設される。
http://yaoi-manga.com/
同サイトは 2006 年 7 月に『Junemanga.com』へと名を変え今日に至る。
レーベル名も『JuneManga』となる。
http://junemanga.com/

2005 年 2 月 18 日
米国にてYAOI専用ギャラリーサイト『y!Gallery』が創設される。
http://www.y-gallery.net/
「the art gallery for male/yaoi/boy's love art」と謳う。
無料で利用できる絵描きの交流サイトとして今日まで継続。
（現在では小説発表の場としても利用されている。）
なお、その前身は2004 年に開設された『ワイ！ホスチング』 http://www.y-hosting.net/ 。
YAOI作品発表者用の無料ホームページサービスであった。

2005 年 6 月 1 日
『サイゾー』 6 月号 インフォバーン刊
特集「ザ・要注意人物」の中の一項として「腐男子」が取り上げられる。
76～77 ページ（見開き）
添えられたイラストを含めやや恣意的な解釈が見受けられる記事。

2005 年 10 月 1 日
別冊ぱふ『BLM　ビーエルマガジン』（雑草社・刊）創刊
ボーイズラブ作品刊行専門情報誌の先駆では無いかと思われる。
またこの本のタイトルは公的に BL をそのままビーエルと読み下した
先駆であるかと思われる。惜しくも 2 号にて終了。

2005 年 12 月 1 日
『Newtype』（角川書店・刊）12 月号掲載記事
「2005 年もの申す」掲載解説（106 ページ）にて
乙女ロードを「通称・腐女子ストリート」として紹介。

2006年3月16日
『オタク女子研究　腐女子思想大系』（杉浦由美子・著/原書房・刊）刊行。
腐女子を全面的にタイトルに掲げた書籍としては初めてのものかと思われる。

2006 年 4 月
ビブロス倒産。系列会社のハイランドも倒産する。

2006 年 4 月 18 日
WEB上で活動していた漫画家・小島アジコがチベット 801 名義で
漫画付き日常雑記ブログ『となりの 801 ちゃん』を開設。
http://indigosong.net/ → http://d.hatena.ne.jp/indigosong/
当時交際していた女性（現在は夫人）が腐女子だったからと言う事で
彼女の日常の諸々をネタにし、腐女子としての内面を京都市北区御薗橋 801 商店街の
マスコットキャラクターをパロディー化した姿で描きつつ記事は展開された。
なお、ブログの件は程なくして彼女の知る所となり（ 2006 年 8 月 7 日付記事）、
小島は後に自身を総受キャラにした同人誌を刊行するに至った。
ブログは後に宙出版より単行本化（ 2006.12.14 初版 / ISBN:4776793024 ）され、
現時点の既刊は 6 巻＋よりぬき版 1 巻。
それぞれ二度に渡る DVD 頒布形態の実写ドラマ化（ 2007.9.5 発売 / 2011.10.5 発売）も
ドラマ CD 化（ 2008.4.23 発売 / 2008.10.22 発売）もされた。
2008 年 8 月 19 日付で京都アニメーション制作による地上波アニメ放映が発表され、
公式サイトも公開されたが、同月 28 日には公式サイトが消失し、詳細の明言は
されなかったものの計画自体撤回され話自体無かった事にされた模様。
公式サイトURL http://www.tbs.co.jp/anime/801/

2006 年 5 月
リブレ出版発足。

2006 年 11 月 24 日
オリジナル実写作品『BOYS LOVE』、株式会社トルネード・フィルムよりDVD発売される。

2007 年 3 月
米・POP JAPAN TRAVEL 社"Yaoi Bishonen and Boys Love Tour"を企画し来日。
このツアーは後年"FUJOSHI PARADISE TOUR""FANGIRL PARADISE TOUR"と名を変え定着
http://web.archive.org/web/20070102205230/http://www.popjapantravel.com/tours/2007_yaoi.html
ツアー企画当初から目玉として漫画家・立野真琴を交えての食事会が設定されていた。
【これは2007年から2011年企画段階まで続いた企画である】
なお、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震発生の影響で2011年5月に予定されていた
"FANGIRL PARADISE TOUR"は中止。以後再開検討中の状態が続く。

2007 年 7 月～ 10 月
韓国のボーイズラブ作品『絶頂』刊行される。
（全4巻/イ・ヨンヒ：作、安藤あき：訳/日本文芸社ニチブンKARENコミック文庫）
本邦にて初めて訳出刊行された海外のボーイズラブ漫画であるか？

2007 年 12 月 7 日
宙（おおぞら）出版より
『この BL （ボーイズラブ）がやばい！　2008 年　腐女子版』刊行される。
界隈の特化ランキング本としては恐らく初めての存在。
なおタイトルは 2011 年 12 月刊行の 2012 年度版まで『△▼年　腐女子版』。
2012 年 12 月刊行 2013 年度版よりは『△▼年度版』となる。
イメージカラーも 2012 年度版まではピンクに統一。 2013 年度版はブルーに刷新された。

2008 年 3 月 12 日
腐女子専用ポータルサイトと銘打った"腐女子.JP"開設。
http://fujyoshi.jp/

2008 年 3 月 21 日
ボーイズラブ専門書評サイト"ちるちる"開設される。
http://www.chil-chil.net/
運営は2007年11月創設の株式会社サンディアス。
商業書籍のみならずあらゆるBL媒体のデータベース化を目指す。
レビュアー兼データ入力者は公募。

2008 年 5 月 2 日
乙女用ポータルサイト"がる★ぱら"開設。
http://www.garupara.jp/

2008 年 7 月 1 日
『 BOY'S ピアス』 2008 年 7 月号【マガジン・マガジン刊】に
乙里玲太朗作「AYUMU～ホモビの国の王子様」掲載。
実在のゲイビデオ男優の在り様を漫画化したと言う触れ込み。

2008 年 10 月
『 JUNE 』関連の発行元がマガジン・マガジンから新たに創業されたジュネットに移管された。
http://company.june-net.com/
http://www.june-net.com/

2008 年 12 月 1 日
『サイゾー』 12 月号発行 サイゾー刊
2005 年の記事に比較すると現場の証言の比重が大きくなった内容。120～129 ページ。
表紙の案内は『ボーイズラブの魅力とは？　同性愛マンガにはまる男子急増のナゾ』。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
[サイゾー発、日本全国「腐男子」育成計画！]
男同士の禁断のラブに萌える「腐男子」のヒミツ、教えます

2008 年 12 月 30 日
同人誌『腐男子にきく。』（吉本たいまつ・編著）刊行。
学術的な面から腐男子の存在を考察した一冊。
翌 2009 年 3 月 8 日には諸事情により同書の改訂版が刊行される。
また続編『腐男子にきく。2』が 2010 年 8 月 15 日に刊行される。

2009 年 3 月 5 日
女性週刊誌『女性セブン』【小学館】3 月 5 日号中綴じに於いて
水城せとな作「キッシング・グーラミー」
（『窮鼠はチーズの夢を見る』［2009 年 5 月 8 日初版 / 小学館］所収）を
教材とした「はじめてのBL～ボーイズラブ～」なる講座が掲載される。
別ページでは解説やブックガイドも掲載された。

2009 年 4 月 4 日
腐男子ポータルサイト"腐男子.net"、中国にて開設される。
http://www/fudanshi.net/

2009 年 11 月 1 日
乙女のための図書館・cafe801〈カフェハチマルイチ）、現在地にて開店する。
http://cafe801.org/
月に数日間、男子入店可能期間も設けられている。

2010 年 5 月 31 日
日本初、と銘打ったボーイズラブバー「Miracle JumP」、
秋葉原にてオープン。在籍する男性店員は皆腐男子と言う触れ込み。
また二次元スタッフ（鳥丸：画）と言う存在も用いた接客展開を
執り行う。二次元スタッフも皆腐男子と言う設定。
公式サイト　http://www.miraclejump.com/
公式ブログ　http://ameblo.jp/miraclejump801/

2011 年 1 月 7 日
（株）ピクト・プレス営業停止。自己破産へ。 編集プロダクションを経て出版社へ。
二次創作アンソロジー及び個人選集で急成長するも…。
なお、刊行物等の残務処理の一部は同じくアンソロジー刊行事業で頭角を現した
CLAP が執行している。

2011 年 6 月 3 日 ～ 10 月 2 日
明治大学・米沢嘉博記念図書館 1 階展示コーナーに於いて
「耽美の誕生～ボーイズラブ前史～」展が開催される。
関連資料の実物も公開された希少な展示会。
また往時の関係者も登壇したトークイベントも開催された。
6 月 26 日『永遠の 6 月（ JUNE ）』登壇者：柿沼英子・佐川俊彦
8 月 6 日『密やかな教育』登壇者：石田美紀
参照：
http://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/exh-tanbi.html
http://www.douban.com/group/topic/22830085/
http://d.hatena.ne.jp/yonezawa_lib/20110604
なお、往時刊行された雑誌『JUNE』の誌名は 6 月或いは作家のジャン・ジュネが
由来ではなく、当年表 1979 年の項目にある様に偶然が重なって生まれたもの。
トークイベントのタイトルは何かの洒落であろうか？

2012年 3 月 15 日
女性専用と銘打ったゲーム特化（モバイル特化）SNS"BLobby"開設。
http://blby.jp/

2012 年 9 月 10 日
リブレ出版より咎井淳（Jo Chen）参加のユニット・ Guilt|Pleasure の著作
『 IN THESE WORDS 』刊行。
初版分が訳出BLでは恐らく初めて品不足による入手困難な状態に陥る。
ちなみに Jo Chen は YAOI-CON に 2003 年以降ほぼ毎年ゲストとして招聘されている。

2012 年 12 月 28 日
『コミック JUNE 』（ジュネット刊）、2013年2月号にて休刊となる。
定期的に刊行される JUNE ブランド雑誌はこの時点で一切なくなった。
この時点で JUNE ブランドを継承しているのは不定期刊行ムック扱いの
『 DVD JUNE 』のみとなる。

2013 年 3 月 14 日
秋葉原のボーイズラブバー「Miracle JumP」が
4月14日に閉店する旨を公表。
詳細な理由は明かされていない。
＊＊＊＊＊
公式サイト記述　http://www.miraclejump.com/update.php?all
公式ブログ記述　http://ameblo.jp/miraclejump801/entry-11489919353.html
ニュースブログ「アキバ日報」記事　http://akibanippoh.ldblog.jp/archives/1709582.html

2013 年 4 月 1 日
ジュネット公式サイト、サイトデザイン更新を機に名称を『ジュネット』から
『ジュネット Web 』に変更。URLはそのまま。
http://www.june-net.com/

2013 年 4 月 14 日
秋葉原のボーイズラブバー「Miracle JumP」が予告通り閉店。
＊＊＊＊＊
公式ブログ記述　http://ameblo.jp/miraclejump801/entry-11510924906.html